

# コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、社会から信頼される企業であるために、タイムリーかつ公正な情報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、コーポレート・ガバナンスの拡充・強化に取り組んでいます。

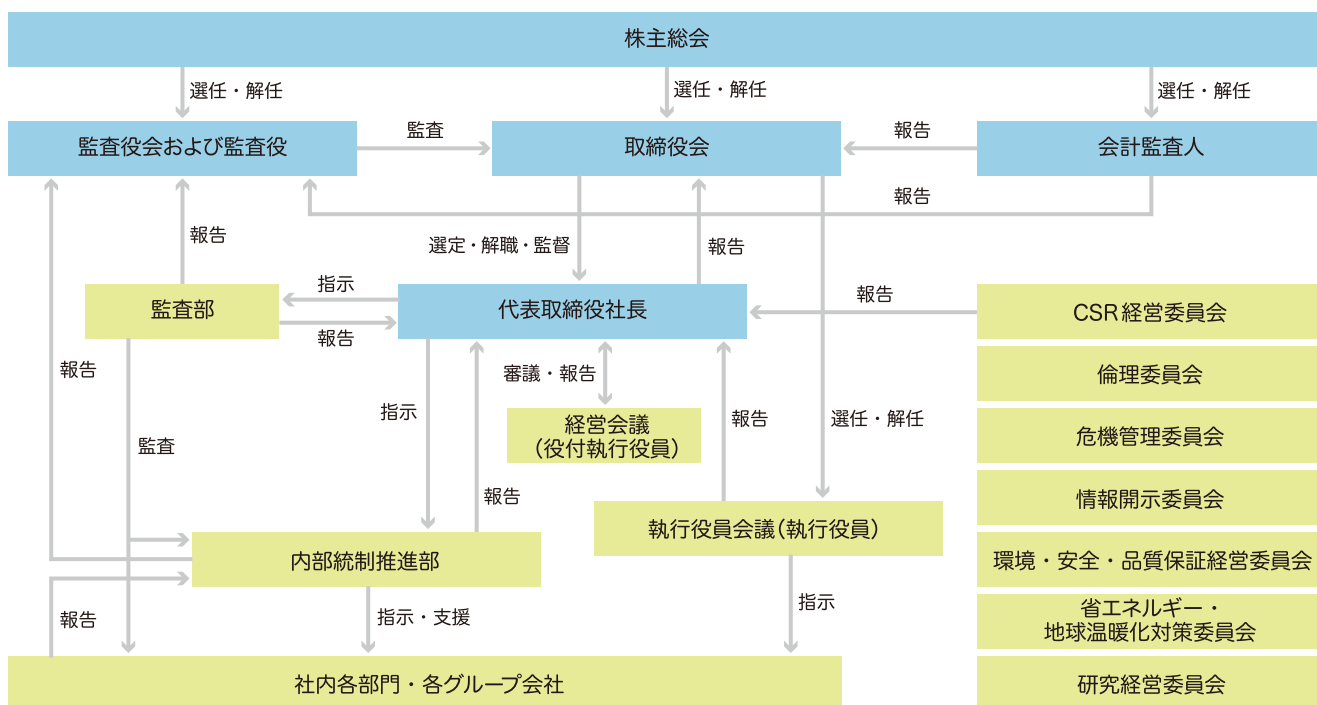
## コーポレート・ガバナンス体制

日本化薬は、取締役会の合議制による意思決定と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

執行役員制度を導入し、経営の「意思決定・監督機能」と「業務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強化し

て適切な意思決定と迅速な業務執行を行うとともに、独立社外取締役の導入により業務執行者に対する監督機能の強化を図っています。監査役は、取締役会等の各種社内重要会議に出席するほか、内部監査部門との情報交換等を通じ、独立した立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

## 内部統制システム概念図



## リスクマネジメント

当社グループは、企業を取り巻くさまざまなリスクの把握とコントロールをガバナンスの重要な要素として捉えています。毎年、危機管理委員会が承認した「リスクマネジメント行動計画」を実施しています。この行動計画の一環として「TOP5リスクコントロール活動」\*を推進し、従業員一人ひとりのリスク意識の向上と発生リスクの共有化を図り、リスクの低減に努めています。

また、企業活動に重大な影響を与えるようなリスクに備えて「危機管理マニュアル」や「BCPマニュアル」等を制定し、危機管理体制を整備しています。このBCPへの取り組みを確実なものとするために、毎年、社長やすべての役員が参加するBCPのシミュレーション訓練を継続実施しています。

\* TOP5リスクコントロール活動：国内外の組織ごとに、重要と思われるリスクを5つ抽出し、その対策を立案、実行する活動。

## コンプライアンス

当社グループでは、コンプライアンスを“企業活動における最優先課題”とし、2011年に「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を制定しました。また、コンプライアンスを法令・社内規程の遵守はもとより、社会規範や社会からの要請に応えるものとして広く捉えています。

全従業員を対象とした集合研修を、計画を立てて実施しており、海外グループ会社では、リーガルリスクのほかに、地域の文化・習慣などを考慮しながらコンプライアンスの浸透を図っています。また、「内部通報・相談窓口」を社内および外部にも設置し、コンプライアンス違反につながる事象を防止し、早期に是正することに努めています。